

○議長(古畑浩一君)

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。〔13番伊藤文博君登壇〕

○13番(伊藤文博君)

新政会、伊藤文博です。

本日は、1点について質問いたします。

1、ジオパークと新幹線開通を核とした地域活性化について。

現在の糸魚川市が活性化、地域振興を考えると、「新幹線開通」と「世界ジオパーク」を重要なポイント、絶好の機会と捉えた取り組みが必要となります。

「新幹線」と「ジオパーク」の活用を核に、交流人口の拡大、郷土愛の醸成と観光を中心とした産業振興による若者の定住促進、市内全域の交通利便性の見直しと再構築、新幹線駅周辺開発の見直し、ジオパーク資産活用による各地域の再生などを考え、地域活性化を図っていく必要があります。

この2つの重要な要素が揃うこの機会に糸魚川市の活性化を図ることができなければ、もう2度とこのような絶好の機会はやってこないでしょう。

次の点について伺います。

- (1)「糸魚川まるごとジオパーク」へ向けて市民との意識の共有は進んでいるでしょうか。また、今後の取り組みは。
- (2)ジオパークを郷土愛の醸成に繋げていく取り組みはいかがでしょうか。
- (3)ジオパークを核とした地域活性化に向けた「交流人口拡大プラン」と「ジオパーク戦略プラン」の重複部分の、計画。実効性の整合、協調は十分に図られ、即実行可能な有効かつ手厚い計画となっているでしょうか。
- (4)ジオパークに関連して各地域との連携は進んでいるでしょうか。
- (5)新幹線開通を有利な要素として活かすための具体的施策は何でしょうか。
- (6)在来線(大糸線)・並行在来線(北陸本線)の利便性向上による活性化をどのように図るのか。
- (7)新幹線開通を契機とした、全ての交通手段を含めたハード、ソフト両面からの交通体系の整備をどう考えているでしょうか。
- (8)駅周辺開発、振興について、その後の検討状況はいかがでしょうか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君..)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目と2点目につきましては、市内団体の各種イベントや事業との連携、市民向けの出前講座、学習支援、ジオパークマスター認定、ジオパーク検定など多角的な取り組みにより、市民の皆様に対するジオパークの普及啓発を図ってまいりました。

また、幼いころからふるさとに愛着を持つことも大切であり、本年3月に策定した子ども一貫教育基本計画のジオパーク学習などを通じて、郷土愛の醸成を図ってまいります。

3点目につきましては、交流人口の拡大のためジオパーク戦略プランでは、新幹線開業に向けて優先する事業を絞り実施してまいります。

また、戦略プラン以外に必要な事業につきましては、交流人口拡大プランの中で位置づけてまいります。

4点目につきましては、地域の既存イベントとジオパークを関連づけていただくなど、連携をとって進めてきております。

5点目につきましては、新幹線開通に向けてガイド、2次交通など受け入れ体制の整備や、国内におけるジオパークについても関係自治体と連携を深め、メンバーの拡大を図ってまいりました。

今後、糸魚川駅周辺での総合案内機能をはじめ受け入れ体制のさらなる充実と、当市の魅力を高める効果的な情報発信を行ってまいります。

6点目と7点目につきましては、新幹線の発着に合わせたダイヤ編成により、乗りかえの利便性を高め、通勤通学など利用者の声を反映した列車本数の確保と、ダイヤ編成をJR西日本、新潟県並行在来線株式会社に要望してまいりたいと考えております。

また、国道8号東バイパス、中央大通り線、市道糸魚川駅南線及び糸魚川駅自由通路の供用開始を予定しており、さらには列車と路線バスの接続を良好にするなど、2次交通のアクセス向上を図る中で、糸魚川駅を拠点とした交通利便性の向上、ネットワークの形成、ジオパーク活用による交流人口の拡大を図ってまいります。

8点目につきましては、平成13年と14年に市民及び議会の意見をお聞きして策定した「北陸新幹線糸魚川駅周辺整備構想と計画」をもとに、当面の金沢暫定開業に向けた北日駅前広場とパーク&ライド駐車場の規模見直しを行うなど、駅周辺整備を進めております。

また、地域振興につなげるため交流人口拡大プラン等への対応と、レンガ車庫切り取り部材やキハ52の活用などを取り入れ、新たに新幹線駅1階部分の利活用を図ることといたしたところであります。

す。

現在、鉄道。運輸機構の新幹線駅舎との設計と調整をしながら、自由通路と橋上駅舎の設計を進めるとともに、新幹線駅1階部分の設計に向けた検討を進めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部。課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私はこの問題は、糸魚川のすべての課題、問題の大もとになる、つながってくることだろうというふうに考えているわけです。

糸魚川市の活性化を今図らなければ、新幹線も在来線も産業振興も、それから財源確保の問題があって、社会保障にもすべての面で影響を与えていくと。本当に大変重要な機会であるというふうにとらえて、このジオパークと新幹線を核とした地域活性化を考えていく必要があるというふうに考えているわけです。

それでなければ、もう二度とこのような機会はやってこない。だから本気で、ここに取り組んでいかなければいけないというふうに思っているんですが、ここについての認識は、どのようにされてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕…

○交流観光課長(滝川一夫君…)

お答えいたします。

議員のお話のとおり、やはりこの2年前にいただいた世界ジオパークの認定、並びに2年後に控えている新幹線の開通、これらがやはり糸魚川の活性になくてはならないといえますか、非常に好機であるというふうにはとらえております。

そういう視点で、議員と同じ考えを共有しながら職務に当たっているつもりですし、やはり今までの観光から少し脱皮した形、新しい意味での糸魚川をしっかりとつくっていくという意味では、非常に大事な時期ではないかなというふうに思っておりますし、新幹線が来たから人がふえるのでは

なくて、ここに来ていただく必要性を、しっかりつくっていかねばいけないんじゃないかなというふうに考えております。

すみません、訂正させていただきます。

今、新幹線の開通を2年後と言いましたが、3年半というふうに訂正させてください。すみませんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

新幹線担当部局では、どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕…

○都市整備課長(金子晴彦君)

伊藤議員が質問の中でお話されましたように、これは新幹線とジオパーク、これが相まって、ただただ新幹線だけではなくて、それにかかわる同じような段階で、ジオパークというものがあるわけですから、これが非常に大事なツールになると、そういうふうにとらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

この機会に、糸魚川市の活性化を図らなければならないという意識は共有できているということを確認して、次の質問にいきます。

糸魚川まるごとジオパークだとか、市民まるごとだとかというような言い方の、また、そういった姿勢の取り組みができるかどうかというのは、ジオパークによる地域振興の大きなかぎに、重要な部分だと思っています。

今まで観光がおくれていた糸魚川市にとって、よそから来た人たちが、見なれない人がまちの中を歩いていることになれるだけでも、なかなかこれは大変なことだと。少なくとも皆さんは、まだ違和感がある状態だと思いますね。直接観光客に接する方のおもてなしの心というのは、これはもちろんのことですが、一般市民が観光客に対して気軽に声をかけたり、それから歓迎の気持ちが伝えることができるというようなことが、できていかなければならない。そこにいくまでになすべきことは何でしょう、何をやらなきゃいけないと、どう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君..)

やはり市民への啓発、宣伝といいますか、ジオパークをよく理解していただくということが大事だと思います。今、議員がお話のとおり、やはり第三者、旅行者の方々との接点が非常に多いわけです。そういうときに、市民一人一人が声をかけられたときに、やはりある程度のご当地の糸魚川をしっかりと紹介しないと、やはりそこにスピードという部分が生じてきませんので、そういう意味では非常に私どももシステムなり、行政が関与した形でいろんな団体との調整なり、事業展開をしてまいりますけども、それとあわせた市民総体のやはりジオへの理解というのが、大きく必要ではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

それで、そういう意識を共有するまでに市民が人ごとじゃなくて、行政依存型じゃない形を持ち込んでいかないと、それまでに何をすべきかということ。具体的に、何かやっぱり方策を講じていかなきゃいけないですね。それをどういうふうに今考えておられるか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

## ○交流観光課長(滝川一夫君..)

本来、市民側から、こちらに対しての投げかけも非常に大事なことだと思います。ただ、それを待っているのは事業が展開できませんので、例えば去年の例で言いますと、議員の皆さんも参力日していただきましたジオパークマスター講座ということで11回、延べ212社、304の方が1年間で参画していただいております。

また、地域の研修会、学習会ということで、特にこれは学芸員の方や、それから担当職員が出ておりますけども、延べ1年間で102回、4,217名の方が勉強なり、ジオに対する講義、研修を受けております。

また、これは現在まで延べ数でありますけど、市内を中心に糸魚川ジオパークの文字とかロゴ、「ぬーな」とか「ジオまる」とかというのを活用した使用の承認制度を行っておりますけども、現在までに97件の社ないしは団体の方が、これは業者の工事看板も含みます、そういうジオパークへの理解を、一定程度深めてこられたのではないかなというふうに思っておりますし、また今後も継続してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

## ○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

今活動を活発にしていることも知っていますし、今お話を伺った内容も今までも聞いてきています。ただ、このペースで同じことをずっと繰り返していただくだけで、本当に糸魚川まるごとというような状況を生むことができるかどうかですね。そこをそのように評価されて、今後も続けていくということであれば、その内容に対してまた検証しながら、改善をしていくというようなことも必要だと思いますけど、どうもそれだけではちょっと難しいんじゃないかと、新しい手を打つ必要があるんじゃないかと思うんですけど、そういうふうには考えてないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

## ○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

実は仕事を展開する立場からは、非常に後ろ向きな話はなかなか言えませんので、それだけは申しわけありませんです。



やはり私たちは市民に理解を深めて市民力といいますか、ジオパークで人を迎えるということ積極的に展開してもらいたい立場で、いろんな活動、事業を実施しております。そういう中では、やはり地域的に見ても空白地帯はあります。それから関心のない方もいらっしゃいます。ただ、これは十人それぞれだと思いますので、やはりそこをできるだけ理解していただいて、お迎えするお客様をしっかりと、次また秋に来ますとか、そういう形でつなげていかれるような、もっていき方というのは大事ではないかな。

特に接客業に当たる宿泊施設、それから旅行業者、観光業者、そういう方々にもう少し粘り強く話をして、しっかりお客さんを迎える気持ちを醸成していただくというか、そういう部分が少し足りないのではないかなというふうに思っておりますので、今やっている活動が、すべてというふうには考えておりません。やはり1年1年研修しながら、次のステップに踏み込んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

やっぱり市民全体が、また大部分の市民が意識を共有するようになるためには、だれかが牽引役にならなきゃならない。でも、やっぱりこれは市のほうで頑張ってもらおうと。その中で民間の意識が向上し、民間活力がどんどん生きてくるといいんだろーと思いますけど、その今途中で、いろいろ頑張っている過程を今お話をされたということだと思うんですけど、行政の担当部署の役割だけでは、到底なし得ないんじゃないかなというふうに思うんですね。場合によっては新しい枠組み、そういうものに取り組んでいく人の新しい枠組みをつくっていくということも考えていかなければいけない。

さっき課長が言われたことから推すと、逆に一生懸命やっているうちに、そういう枠組みができていくかもしれませんね。例えば市の退職者で、そういう部分について精通している方に、今度は専門的に整備のほうにかかわってもらおうと。どの立場というのは、また難しいですね。商工会議所も取り組んで、また、市の関係でやるのかいろいろありますけど、いろいろ道を探っていってほしいなというふうに思うわけですね。

それをどういうところで検討していくか。より活性化させていくために、例えば今、交流観光課だけで考えていくのか、それとももっと民間を取り込んだとこでいくのか、または市内の各E果連携の中でいくのか。今後、発展的に取り組んでいくための枠組みというのは、交流観光課だけではないものというのは何かありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕…

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

議員ご指摘のように、これは一時的には力を注いでいかなくちゃいけないわけでございまして、1担当課だけでは非常に大変だと思っております。1つの事柄だけでも市民全体、また市外にもアピールするというのは非常に大変なことであるわけでございまして、それを考えますとやはり今ご指摘いただいたとおり、職員が一丸となって取り組まなくちゃいけないんだろうと思うわけでございまして、その辺の枠組みを、また市民と一体となって進めていく方向で、今いろいろ検討しとるわけでありまして、しかし職員すべてが、ジオパークの発信活動をできるわけじゃございませんので、業務の中で取り組まさせていただきますし、また、いろんな立場の方々にもお願いさせていただいております。それは職員組合との話す機会などについても、組合活動の中で取り組んでいただけんかというような話もさせていただくとるわけでありまして、

そのように切り日はいろいろあろうかと思うわけでございまして、その辺を今進めさせていただきたいと思っておりますし、やはり今ご指摘いただいたように、チャンスは今しかないんだという感覚の中で取り組んでもらえるよう進めていきたいと思っておりますし、市民の方々にもそのように、いろんな業種の方々にも取り組んでいただいているのも、その辺の流れであるわけでありまして、また、取り組んでおる事業すべて、じゃあそれでいいのかということ、やはりそれでいい取り組み方もあろうかと思うわけでありまして、また、新たなまだまだ展開もしなくちゃいけないこともあろうかと思うわけでありまして、

その辺を市の交流観光課ジオパーク推進室のみならず、今言つたように市全体、また協議会があるわけでございますので、協議会の皆様方ともやっぱりその辺の話を進めなくちゃいけないと思ってるわけでありまして、しかしスピード感も大事なわけでございまして、時には飛び越したことも行ってるわけでありまして、それは許される範囲の中で進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君…)

ある意味、この糸魚川まるごとという感覚が、本当にジオパークが成功するかどうかの大きな鍵



になるんじゃないかなと思うんですね。ここがそれでまた一番難しい、なかなかそういう感覚になっていかない。どうしても行政依存型というところ、ここを何とかできたらジオパークはどんどん盛り上がっていくんじゃないかと思うんですけど、これは大きな課題だと思いますので、またいろいろな角度から考えて、取り組んでいていただきたいというふうに思います。

ジオパークを郷土愛の醸成につなげていくということですが、子ども一貫教育方針計画でもジオ学を大きな要素に取り上げていますね。学校で習ったことの影響は、非常に子どもに対して大きい影響を与えますので、しっかり根づいていってくれることを願っているわけですが、ジオ学という考え方の定着というのは、学校現場ではどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長山崎光隆君登壇〕..

○教育委員会こども課長(山崎光隆君..)

お答えいたします。

学校では主にジオパーク学習という形で、具体的なその地域、地域のジオパークに触れながら学習をしているという形でございます。

ただ、ジオパークの学習とジオ学というのは、ちょっと範囲が随分違う形と考えております。先生方は一応ジオ学ということについて、一貫教育方針のときに十分説明をしてきておりますが、ただ、子どもたちに出していったときにジオ学ということが、発達の年齢によってどの程度理解されていくかということも考えて、あるときはジオパークを通じての学習とか、ジオ、大地と、それからそこで育つ動植物も含めた一体となつたものとしての学習というふうに考えられる、発達年齢ごとに指導をしているということでございます。以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ちょっと言い方が、ちょっとジオ学というふうにこだわった言い方をしちゃったんですけど、そうじゃなくてジオパーク学習でいいんですけど、その子どもが学校で習ってくる。そうすると、ああ、糸魚川つてジオパークなんだと、ジオパークってすばらしいんだと思っていても、家へ帰っていくと親にジオパークの話をしてピンとこない、なんだという話になる。そういう可能性は非常

に大きいですよ。

最初の質問とリンクしますが、要するに市民まるごと、その家庭を巻き込んだというところが、この郷土愛の醸成にも非常に大きな課題となってくるというふうに思います。

ですから今度は、さっきの市民というような言い方をした中の市民まるごとという考え方に、今度は子どもを巻き込んだ考え方をしていくと、ちょっとまた違う観点で見えていけるのではないかなと思うんですけど、この辺に対しては何か考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

ジオパークのアンケートをとった、そのデータを見させてもらったことがあります。そのときに一般の市民の方々の中においては、成人の皆さん方におきましては7割が理解したという状況で、3割が、まだジオパークってわからんというような結果が出ております。子どもたちの中学生のアンケートを見ても、同じ数字だったわけでございまして、私これではだめだという感覚を受けました。と申しますのは、やはり今言つたように学校でジオパーク学習をしておるわけでございまして、一般の方々よりは子どもたちのほうが理解してるのかなと思つたところ、そうでなかったという数字が出てきておるわけでございまして、その辺をどのように考えていけばいいのか。これはやはり教育の中においてもジオパーク学習というのを、もうちょっとしっかり考えていただかななくてはいけない。

それはただ単に、学校教育の中で取り組み、取り組みではいけないんだろうということで、特に、また私はジオパークというところを先生方にご理解いただくことが、さきだろうと思つているわけでございまして、その辺をやはり先生方に広く知っていただく、また深く知つていただくことをこれからしていかなくちゃいけないんだろうと。先生方が理解してもらえれば、子どもたちもスムーズに入っていけるんだろうと私は考えておるわけでございまして、そういったところが、まだ足りないところだろうと思つております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

私は今教育現場のことよりも、教育の現場で子どもたちがジオパークについて学習してきたものを、親とどう連携をつけて根づかせていくかというふうな方向で聞いております。ちょっと総文のほうは聞きにくいもんですから、そういうふうにさせてもらっているんですが。

実際にジオパークを郷土愛に結びつけていくためには、生活のあらゆる場面でのジオパークとのふれあいということを想定して、ぶつ切りではない方策が必要だと思っております。ですから今の子どもたちと親とのふれあいというのも、非常にそこに着眼した啓蒙といいますか、共通意識の醸成みたいなものをしていくべきだなと思っております。だから子どもから逆に親に入っていくと、行政から直接親にということじゃなくて、子どもから親に入っていく部分も何か考えたほうがいいんじゃないかと思っておりますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

## ○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

## ○市長(米田徹君..)

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、これはどちらから入ってもいいわけですが、より浸透するには、やはり子どもたちの部分もあろうかと思うわけですが、そのようなことで私はジオパーク学習も取り込んでいただきたいという形をお願いしとる部分でありますし、また、今、議員ご指摘のように親に向かったときに、親もそれぐらいのやはり興味なり、そうした知識を持つことによって、より一体感を持って入っていけるんだらうと思うわけですが。

そういった意味では、特に最近、自然災害が多く出てるわけでありまして、今回の東日本大震災もそうでございますし、また、我々の一番身近に起きそうな1つの自然災害は、やはり新潟焼山の噴火というものも大きくあるわけでございますので、そういった想定できるものを1つのジオパークの中において地球のメカニズムということで、特にジオパークの中でも発信できるわけでございますので、そういった1つの我々の身近における事柄を示していくことが、興味を持っていただけることだろうと思うわけですが、今回のこの自然災害を大きく我々は生かしながら教訓として、そしてまた防災にもつなげられることでございますので、そういったところの切り日から入っていくことも、一般の皆様方が関心を持っていただけることだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

## ○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

それではプランのほうにいきます。

3月にジオパーク戦略プランができ上がるはずだったわけですが、ちょっと内容的に不十分といえますか、満足できないものがあるって、もう少し納期を延長したわけですが、現在の進行状況といえますか、できぐあいというのは、どんなぐあいになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君..)

この6月に観光協会等の観光業の皆さんとの打ち合わせが終わりました。今度は議員の皆さんにもう一度見ていただくような段取りで今まとめておりますので、最終的には9月をめどにしておりますけど、もう1カ月ぐらいでしっかりまとめた形で、皆さんとまた意見交換をさせていただきたい。そういう形で、今、市民の皆さんと大体お話を、意見交換が終了しつつあるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

余談ですが、こども課と打ち合わせの席でも話したんですけども、こども課にも幾つかの計画があるんですね、いろんな計画が重複していると。この交流人口拡大プランとジオパーク戦略プランも重なり合っていくわけですから、その両プランがしっかり比較されながら整合性をとられていかないと、片一方だけ見てたんではわからないというようなことであって、多分、両プランが成り立っていく形で作られたとしても、実際に仕事をする人は、その両プランをちゃんと比較しながら見て、理解していけるようなつくり込みが必要なんじゃないかと思う、実行する段階では。

別々に見てたんではわからないですよ、あっち見たり、こっち見たりしては。何かそういうことが、実際に担当していく部署では必要なんじゃないですかね、理解するためにはと思うんですが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君)

現実的に今の戦略プランが出てきますと、2つプランということで並ぶわけですがけれども、私どもは今、これからお話するような形で整理しております。

交流人口拡大プランについては約2年ほど前につくられたもので、職員が、ほぼいろんな意見の委員さん等と話をしながらまとめたものでありますけれども、これは総体的に糸魚川市全体を見定める形で制定しました。1つは、人づくり、それからもう1つは、まちづくり。そしてツーリズムに関連しまして、やはりツーリズムの進展と、それに関係する業としての活性、それからもう1つは、やはり情報の発信と交流という、糸魚川市のこれからの総体、いわゆるジオパークを契機とした総体をどういうふうに展開していくかということ、ポイント的にまとめてあります。その中では、未来5年間のやはり交流人口を、こういうふうに拡大していきたいんだということを約50万人を目標に設定してあります。

今回まとまってくるジオパークの戦略プランについては、ジオパークを活用した各サイトの利用の仕方、並びに特に戦略的に、こうしたら人のにぎわいが生まれるよという部分を、ジオパークに特化した形で提案をいただくような形になっております。

そういう観点から、やはり全体を見渡した既存の観光とのセットしたものの交流人口拡大プラン、それからジオパーク単体としての切り口で攻めた、即、実践的な戦略プランというふうな形で私どもは考えておりますので、やはりそれは広く多面的な糸魚川市を見渡す中で、今突きつけられているジオパークを活用した活動、あるいは事業ということで戦略プランをしっかりと踏まえて、生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

今説明されたようなことはわかっているんですよ。全く同じプランを2つつくったとは当然思っていないし、その重なり合っていく部分というところで、例えば我々であっても、市民であっても両プランを見たときに、しっかりそこが理解できていくような何か手だてが必要じゃないかということ

ですね。

いろんなこと、例えば法律文もそうですね。何々法があって、規則があって、条例があってといつて、そうすると、あっち見たり、こっち見たりしないと理解できないと。それはなかなか専門家でないと、理解できないようなことになって、結局、その手引き書みたいなんが出てくると、それをまとめてきちっとわかりやすく書いてあるということです。

だから、この交流人口拡大に関して、この中でジオパーク戦略プランの中ではこういうふうになって、こういう具体的なことをいってますというような関連づけたものをつくって、理解促進していく必要があるんじゃないかということを私は話したんです。どう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君..)

先ほどお話のとおり、もう既に交流人口拡大プランの数値目標も、一昨年の冷夏の影響とか、それから地震の影響で、既に目標数値が少しずれております。当然、現実に合わせて修正が必要になってきます。

そういう意味では、今回戦略プランの中でも概要版も1つ、つくるような形で一応考えております。両方のプランをしっかりと整合を持ちながらやはり位置づけて、概要版的なものも変更を加えて、つくっていく必要があるのではないかというふうに今事務局でも考えておりますので、そのような方向で少し検討させていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

正式な製本されたようなもので、そういうものをつくってほしいということ言ってるんじゃないですよ。例えば実際に当たる人たちには配られる程度の、例えばホームページを見ればそれを引っ張りだしてくれるとか、そういう必要とする人が、必要に応じて使えるようなもので、例えば交流人口拡大プランの利用の手引き書だとかというようなことの中で、そういう絡めたものだということがわかるものでつくっていただければ、多分せっかくつくったプランですから、いい形で生きていくんじゃないかなと思うんですね。

おおよそ重複したプランは、食い違いがあっても気がつかないで使ってます。大概の人は片っ端



から見てないから。そういうことが起きないように、また両計画を今後は、計画というのを見直して行ってこそ計画ですから、だからやはり見直しできるような形で進めてもらいたいと思います。

それから各地域との連携ですが、市民まるごとというか、さっきからそういう言い方をしていますが、ジオサイトと関連の深い各地域で連携を図っていくということは、まず最初にあっていかなければいけない。ところが24サイトそれぞれの状況、事情があって、一通りに取り組むことはできないんですが、とりあえずジオパークを活性化していくためのルート設定など等を含めて、順番を定めて対応していかなければいけないということなんですが、この地元との連携のぐあいというのは、大まかでいいですから、どんなような感じで今進んでますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕…

○交流観光課長(滝川一夫君)

各地域の事業展開に差があることは事実です。今うまくいっている1つの例としては、やっぱり小滝の地域、高浪の池、並びにヒスイ峡を含めまして、非常にお客様がだんだん多くなっていく中で、やはり自分たちでお客様をお迎えしなきゃいけないという姿勢に非常に変化しておりますし、正直、高齢なんですけども、その皆さんが非常に地域を引っ張って、元気づくりが非常に盛んであります。

やはり組織ないしは私は見えても、リーダーなり、そこでしっかり働く人たちが誘引している1つの材料、現場もあるかなというふうに思いますし、やはり仲間づくりに、地域はやっぱりそこに終結してくると思いますので、非常に大事な部分ではないかなというふうに思います。

やはり地域の活力、市民のエネルギーがあって初めてその地域が、やはり行政も含めて支援なり、連携ができるんじゃないかなというふうに思いますので、私どもはやはりそれに期待をしたいし、ある意味では一生懸命そこに輪を広げながら手を差し伸べるといって、非常に連携を深めたい、そういうつもりで各サイトの皆さんに、特に集落の皆さんにお願いしている、そういう状況であります。

またジオの場合は、非常に多様的だというふうにお話をしてきました。ある意味では地質、鉱物を含めて、今のジオサイト1つ1つ、24全部ありますけども、そのほかにもやはり食なり自然景観という部分も大いに含まれてきます。そういう食の中では今現在、うまいもん会ということで、糸魚川ブラック焼きそばということで非常に注目を集めた活動になっております。やはりこのようなものも、1つのジオパークの活動に誘発されて、関連として出てきた1つの事業だと。これも自助努力によって動き始めておりますので、こういういい例をやっぱり前例にして、市内の力をつけていくべきだろうなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

その地元でのガイド養成とか、先ほど申しました郷土愛の醸成に絡めて、少年ガイドなんていうことがあれば、本当に少年に案内をしてもらえば観光客は喜ぶますよね。少年ガイドの養成なんていうものは取り組んでますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君..)

正直、少年ガイドについては、まだそこまで手がいっておりません。ただ、ガイドの養成は必要が非常にあるだろうなということで、同一步調をとらせてもらって、今、一生懸命連携しております。

なお、報告でありますけども、先般10日の日に、今まで糸魚川市にはボランティアガイドというのと、観光ガイドというのと、ジオパークガイドという3つがありました。それを皆さん、何とかしなきゃいけないということで、糸魚川ジオパーク観光ガイドの会ということで、1本にさせていただきました。現在36名の方が、そこで活躍いただいております。やはり市内の拠点施設、並びに各ジオサイト、それぞれの受け持つ範囲はありますけども、やはりこのような方にご協力をいただきながら、ジオパーク検定のそういう機会もあわせて子どもたち、並びに広くお客様を誘引していくという部分では、ガイドが重要ではないかなというふうに思われますし、やっぱり体験型としては、今やはりそれが注目されているというふうに思いますので、機会があれば、そのような形を推進してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

地元に基づいたガイド養成、そして少年ガイド、ぜひとも進めていってほしいと思います。

地元の産業に結びつけていくためには、民間活力によって工夫、実践されていくということが、重要であるということと言うまでもありません。しかし、それは市民に全体像が見えなければ、工夫のしてみようがない。ジオパークで何かしたいけど、どんなことになるかわからんから何も考えられん、だれか教えてくれんかなというようなこと。

ジオパークに関するランドデザインといいますかね、ランドデザインという言い方を私もよく使ってますけども、要するに、わかりやすい形で、ジオパークでの糸魚川の将来像みたいなのがわかってくる。それに関連づけて、自分たちの地域がどんなふうになる可能性があるかと。そこに自分はどういう絡み方をしていけるのかなというようなことが、この戦略プランができ上がったところで、示されていく必要があるんじゃないかなと思うんですね。各地域、地域の人たちにわかるような形、それから市全体のものがわかるような形というもので、ジオパーク戦略プランの中で、そこまで含まれているかどうかわかりませんが、それが出てきた段階ではその次、入っていればいいんですけど、入ってなかったら次の段階として、やはりそういうことをしていかないと、なかなか市民理解は進まないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君..)

今の戦略プラン、並びに交流人口拡大プランの中では、まちづくりの部分では観光協会との連携だとか、それから関連業種の事業展開だとか、その域までで今とどめてあります。

そういう意味ではランドデザインと言われました。やっぱりまちづくり、本来の都市計画、ないしはまちづくりという部分までは、かなり範囲が広がりますので、私どもで今考えている交流人口拡大プラン、並びにジオパークの戦略プランでは、そこまで要求はしてないといいますが、そこまでまとめというふうには今の資料提供はしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

そこまで要求してなかったら、その後、示す必要があるんじゃないかということ、私は先ほど言った。それをどう思うかという話でしたんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕..

○交流観光課長(滝川一夫君..)

大きな意味でのまちづくりに関しては、非常に庁内を含めて関連各課がたくさんあります。また、市民の皆さんとも連携を図る場面がありますので、また関係各課で調整を保ったり、そういうことで話を進めていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕 ’

○議長(古畑浩一君)

田鹿総務部長。〔総務部長田鹿茂樹君登壇〕..

○総務部長(田鹿茂樹君..)

お答え申し上げます。

今、滝川課長が申し上げた部分もございますが、ジオパーク戦略プランではそこまで、まちづくり全体の将来像を描いてもらうような要求はしていないということでございます。

これは当然、ジオパーク戦略プランができた段階で、今、総合計画の後期基本計画の付録版という大変失礼ですが、地域づくりビジョン、さらには地域づくりプラン、このプランについては、今後、地域の皆さんが、どのようにこの地域を活性化していくのかという部分で地域の皆さんとキャッチボールをしながら、地域の皆さんが主体でつくるというプランの考えも持っております。

これにどうジオパーク戦略プランを生かして市の全体将来像を描くのか、今後の課題とは思っておりますが、このジオパーク戦略プランができた段階で、またそれらを取り入れながら、地域の皆さんとキャッチボールをしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

それでは新幹線開通のほうの関連にいきます。

新幹線に関しては、停車本数の問題が重要な要素となってきますが、いたずらに本数増を求めるだけでは、利用者がいなければすぐ減らされてしまうと。逆に、最初は少なくとも利用者が多ければ停車本数もふえるということも言えると思うんですが、長い目で見れば利用者の増加こそが、新幹線開通で最も重要な要素だと言えます。利用者増加対策について、何か考えはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

やはり今まで以上のお客様をふやすということですから、今ほど話してきたジオパークを活用した形で、糸魚川に目的を持って降りていただくということが重要になると思います。やはりジオパークによる交流人口の拡大、これがかなめになるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

先ほど答弁の中でありましたが、『新幹線が開通してからではない』とやっぱり答弁してもらいましたね。本当にそうだと思います。ジオパークによる活性化、そして新幹線開通を契機とした活性化、交流人口の拡大と、それから乗降客の増加、新幹線の利便性の向上というのが、ぐるぐる、ぐるぐる回っていくようなことになって、どつちが先とも言えない。だけど利用者をふやさなきゃ、利便性は絶対向上しないですね。

アーケードを新しくする、電線の地中化というような話もありますけど、これについてもやはり先ほどジオパークに関してのランドデザインと言いましたけど、駅周辺がこんなふうになって、新幹線が開通したら全体像としてこういう形になりますよというランドデザインという話も再三しているわけですが、こういうものも必要になってくるだろうというふうに思っております。

東京に向かって行けば糸魚川以西、富山県側の人たちも今度は糸魚川駅のお客さんになりますね。単にジオパーク関連だけではなくて、やはりここから西側の人たちが東京に向けて行くときに、糸魚川まで来て乗ってもらえるような形をとつていかなければいけない。また、せっかくそうやって来た人たちが糸魚川駅周辺、または糸魚川のジオパーク関連で過ごしてもらえる時間を取れるというようなことが、全員が全員というわけにいかんでしょうけど、そういう可能性を含んでいると思

うんですが、この富山県側もお客さんになるということに対して、何かそこに対する方策みたいなものがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君)

この間も並行在来線株式会社がいろいろ調査をしております、どうしてもやっぱり富山県境の乗客が非常に少ないというのが、これは普通列車ですけどもあります。

そういう中で富山側には、今、黒部と、それから富山、高岡もありますけども、富山市より要するに東寄り、糸魚川から言えば西ですけども、富山から東の方の要するに新幹線の駅のない例えば魚津、泊の人たちが糸魚川へ来て新幹線に乗っていただければ、より今の利用者よりももう少し広い範囲、これは当然、新幹線駅をつくる時にはそういう圏域までは入っておりますし、そのほかに、当然、大糸線圏域もその1つかと思います。

ただ、その辺の今ダイヤの調整なりは、優等列車なり、それから並行在来線がどこまで乗り入れて、どういうふうな形で富山側の利便性を糸魚川で求めるかというのが、今後の富山県側のまた会社との協議になるのかなと思っております。そういうことを含めて、今、富山県なり黒部市、魚津市の皆さんとも情報交換等を始めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その辺はまた駅周辺整備と絡んできますので、後でちょっと戻るかもしれませんが、また、大糸線に関しては利用者をふやすことをやっぱりあっていかなきゃいけない。大糸線・北陸線を守る会の方々などとも連携をしながら、利用促進を図っていかなければいけないということで、その利用者がふえなければいけないんだということに対して、やはり沿線住民が特に重要になってくるんですけど、そこに住民の方々との意識の共有というのは、どのように図られているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕



○議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君)

沿線の方々、特に大糸線を守る会の方々もいろんな活動をする中で、市に来て要望というのでも出されております。ただ、一番のやっぱり解決というのは、乗っていただくというのが本来あるべきなんですけど、この辺についてはなかなか少子高齢化とか、それから人口減少の中で、さあ、乗ってくださいと言っても、なかなかじり押しで減ってきているというのが事実です。

ただ、そういう中ではやっぱり沿線利用者の方々には、ある程度意識づけをしてもらって、仮に月に1度なり、週に1度というのはちょっとわかりませんが、例えば意識して車に乗らない日をつくってもらおうとか。例えば、じゃあそうするにはどうするかというのは、また市として考えていかんなんと思えますし、そのほかにはやっぱりある程度新しい企画の中で、定期的な利用者をふやす。

それに今はやっぱり当然ジオというのが、特に大糸線沿線沿いといいますか、(姫)1沿いには多いわけですから、その辺も含めたり。また当然、長野県側、白馬、要するに安曇野のほうまでを含めた中で、いろんな新しいものを考えていければなど。ただ、なかなかこれは日と言っても事実として、大糸線はもう十数年前から激減しているというのも事実ですので、これは市も知恵を出して、それから沿線の方々にも意識してもらってのところから、始めていかなければならないのかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

我々も大糸線を利用しなくちゃなという意識があるわけなんですけど、用事がないのに電車だけ乗りに行くというのは、なかなかできないことでして、大糸線はなくしてもらっては困る、だけど乗らない、利用しないというのでは、これはやはり当然、存続は図れませんよね。

やっぱり存続していくためには、どういうことをしなきゃいけないのかなということの意識を住民の方に持っていただくために、どうするかというところがやっぱり大事で、ただ乗ってください、乗らなきゃだめですよだけの話じゃなくて、やはりそれを地域の住民運動的なものにつなげていくために、やっぱりだれかが火つけ役にならなきゃいけないというようなところがあるんだと思うんですよ。

それが地元の人で、そういうカリスマ的な人がいてあってくれればいいんですが、やっぱり何か

こういうことは、ばかになる人がいないとなかなか進まないというのが、どこへいっても言われることであり、地域振興と考えればそういうことだと思っうんですね。

観光面での利用というのはプラスアルファ要素ですけど、やはり地元利用が一番大切であり、ベースになる。そのためには、生活に密着した鉄道になっていかなければいけない。利便性の向上ですよ。利用者が多ければ利便性が向上されるのか、利便性が向上されれば利用者が多いのか、これは難しい問題ですよ。並行在来線のほうも同じだと思っうんですよ。

そこで、どういう協議をJRとしていくか。また今、並行在来線も含めた話にしていきますが、並行在来線の会社とどう協議していくのか。やっぱり同じ思想の中で論じていかないと、改善策はないんじゃないかと思っうんです。大糸線はJRだから別、並行在来線は並行在来線、当然、協議する相手が違いますけど、考え方としては同じようなことの中でひっくるめて協議していったって、その連携も深めて、利用しやすくしていくというようなことがなければならぬというふうにお思っうんですけど、どうでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

本当に私も沿線に住んでおるわけでございまして、月に1度ノーカーデーがあるわけでございまして、そのときには私も乗っておるんですが、なかなかこの現代社会の中において、車の利便性というのは非常に高いものがあるわけでございまして、今の状況を考えますと私も一概に車での利用をやめて、すべて列車にしてくださいという話は、なかなか理解してもらえない部分だろうと思っております。

本当に雪で148号がとまったときでも車通勤の人たちは、今回は148がとまってだめだわと言うだけで終わるわけですが、そのときには大糸線は動いておるんですよ。私はそれでもって役所へ出てきた経験があるんですが、えっ、大糸線があったんだというぐらいの、そのときもまだ感じなくて後でわかったというような、本当に悲しい出来事だつたと思つとるわけでありまして。

そのようなことの中で、どのように利用者をふやしていくかというのは、本当に大きな問題であるわけでありまして、私といたしましては今言つたように観光部門が、ジオパークや自然景観がいいもんですから、そういったとこでふやしていきたいというところでおるわけでありまして、地元の住民の人たちに使つていただきたい中で、今、各駅の駐車場も少しきちつとしたほうがいいんじゃないかというところ取り組みもさせていただいて、JRの了解も得たところでありまして。

そのようなことで、確かに議員ご指摘のように地元の代表者の皆様とは話をしとるんですが、地

域へ出向いて行つた中では、まだしてないのが実情であるわけでございますので、地域振興係のほうから、またそういった情報発信を地元にしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)  
伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

よろしくお願いします。

並行在来線の利用者拡大、経営改善というのが大きな問題になっています。今、それも絡めた話をしてるんですが、並行在来線に今度は絞っていきますが、結局、利便性の向上ということで、運行本数だとか、新駅の設置というのが大きな課題だと思います。何回もここでもいろんな人が言っていますが、その辺、並行在来線会社とどういう交渉をして、今見通しはどんなふうになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(古畑浩一君)

本間副市長。〔副市長本間政一君登壇〕…

○副市長(本間政一君)

並行在来線の関係につきましては、現在、乗車人員、あるいは乗車時間等の調査をいたしております。それらの中で、どういう運行本数が一番いいのか、あるいは、市民の利便性がいいのかということ調査しとるところでありまして、これらをまとめる中で絞っていくことになっておられます。市としましては、やはり市民の利便性が下がれば困るわけですので、そのことを重点に話をしていくところでありまして、今後、具体的な話に、近くはなってくるんだろうと思っております。

それと今、議員が言われますように、いろんな方から乗っていただくということになるんだと思っております。一番は高齢者の病院に通うのと、通勤通学の方が圧倒的に多いわけですので、それ以外の方で今のジオパーク、あるいは観光等、あるいはいろんな買い物で、いろんな方が行きやすいように、また乗りやすいように、いろんな角度から取り組まなきゃならんと思っております。そのためには、やっぱり駐車場の問題等も当然その1つなんだろうと思っております。いろんな面から、今後考えていきたいと思っております。

それから新駅の話もちょっと出ましたが、嶋津社長が来られて対話集会をやった中でも、新駅の

話が出ておりました。今、会社が即つくるという段階じゃありませんので、その地域で必要とするものは、その自治体が方向づけをし、進めてもらいたいというような、今の段階では、そのような意向でありますので、すぐということにはならないと思っています。市民の合意のもとで、今後詰めていく形になるんだろうと思っています。そういうことでつければ、逆にまた利用者がふえるということにつながるようであれば、そこら辺というのは市全体の中で、また検討していかなくちゃならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

新幹線開通を契機とした見直しのほうに入ります。

開通を契機として市内の交通網を見直し、整備するという必要がある。ソフト・ハード両面なんですけど、ソフト面が特に取り組みやすいと思うんですけど、今回取り組んでもらった通学支援のバス利用補助なんていうのは、すばらしい制度だと思いますが、このほかに今考えているソフト面での、何をやるという確定的な話じゃなくていいんですけど、こういうことについて検討して、今後の利便性を高めていきたいというようなこと考え方があったらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君)

これは今まで話したこととまた重複するかもしれませんが、基本的には新幹線のまず発着がありまして、必ずしもそれだけではありませんが、それに合わせて大糸線なり、今、北陸本線のダイヤを。今までは、これはJRが経営すると、富山から直江津というような中での運行になりますが、例えばもう少しコンパクトになる中で、もう少しダイヤが密になるとか、そういうある程度の逆に自由度も出てくるのかなというのがありますし、そういうものを合わせた中で、今度は電車に合わせて次は例えば2次交通のバスを、それに合わせた発着にするとか、また、あるいはタクシーというのは、学生はちょっと難しいでしょうけど、それに合わせた回り方。路線バス、観光バス、すべて糸魚川の駅を拠点とした中で、ダイヤを組んでいくというようなことを今のところ考えられるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

道路網ということになると、今の計画の範囲の中での話になると思うんですけど、実際に計画を変えて、こういう道路をつくれという話をするつもりはないんで、そこを前提にして聞いてもらいたいんですが。

今の駅周辺の道路網について、本当にいい道路網になっているかどうか、その課題というのは何かあるんじゃないかということですね。あるとしたら、じゃあ道路はつくれんけど、こんな方法で補っていけるというようなことを考えていかなきゃならない。できるかどうかは別にしても、本当にいい道路網だと思っていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕..

○都市整備課長(金子晴彦君)

糸魚川の地の利といいますか、要するに北陸本線で分断されている性格上どうしても。東西には、ある程度、今、国道もありますし、県道もありますし、今後、中央大通りが結ばれるということで、東西に対する利便性というのは、これは完成した暁には、かなりのものになると思いますけど、どうしてもやっぱり南北というのが。

今、歩行者は自由通路で、これが一番課題であつた駅の分断は、歩行者としては解消できますけど、車としては、今、奴奈川線と、それから国道148号、立体で連台寺線という。これはかねてからの古い歴史の中では、蓮台寺線も何とかもう少し広げてというのもありましたが、今はできる範囲の中で南と北、前後を広げて、最後にこれはボックスが。これは今後、またJRから並行在来線になったときに、もう少しコンパクトな工事ができてというの、また一度考えていかならんと思いますので、ネックとすれば、やっぱり南北の車の行き来が弱いというのは感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

これは交通網の課題として挙げとく話ですけど、今、東西は、と言いましたけど、東西も例えば県道はストレートにすばんと通ってないですよ。やっぱりかぎ手になって行きます。国道は一番海辺でさっと思いき行きますけど、その駅に一番近い通りもやはりストレートに通っていかない、かなり難があるんですよ、東西ではあっても今現状は。南側を見たときには中央大通り線がすばんと通ってますけど、あとは小さい通りしかないですね。

そういうふうに駅を取り巻く交通網というか、都市計画は決まってるんですけど、糸魚川は。その中で、じゃあ今ソフト面の例えばバスの運行経路とかいろんなもので、利便性を高めていかなければいけないということを考えていくべきだというふうに思うんです。

道路をつくるというのは大きな事業になりますから、次の段階のもし都市計画があれば、当然課題としてあっていかなきゃいけないことですが、その辺は考えてください。

ただ1つだけ、南北は自由通路で結ばれますが、やはりこれは歩行者の動線であって、車の動線じゃないんですね。今、課長が言われたとおり、やっぱりそこに難がある。そういう状況の中で、駅周辺を一体と考えたときに、どうやって人の流れをうまく確保していくかということに対して、やはり相当な工夫が要るということだと思ってるので、これは今ここで答弁求めて、答えを求めるとじゃなくて、課題としてしっかり認識していただきたいということでもあります。

そして最後ですが、駅周辺開発、振興について、その後の検討状況はいかがかという質問をしたのは、私も何度か一般質問でこの話をしました。去年、東洋大学の石井教授のところへ勉強に行つて、佐久平を見て、そして新上越駅を勉強してきたという。そこから2度ほど絡めて質問させてもらっているんですが、やはり新幹線駅周辺整備計画、13年、14年に整備された構想と計画だということですが、これをバイブルとして進めてきたわけなんです。これをほごにして、やり直せということをするつもりはないんですね。不足なところは何かの形で補っていかなければいけない。

ですからこの後、やっぱり計画が策定された後に、いろいろとほかの事例が出てきて、計画の不足なところも本当はみんなわかっているはずなんです、課長さんたちも。個別に話せばわかると思うんですが、ここでは言いませんけどね。だけど、そこをしっかりと洗い出ししておいて、そしてどういう方法で補うかという、その洗い直しの作業というのは、どうしてもやらなきゃいけないと思うんですよ。

計画の内容を変える、構図を変える、図面を変えるんじゃないで、足りないところを、どういうふうにして補っていくかというところの洗い直しをやってほしいということで、去年の12月にも質問したら、その当時の織田総務部長は、全国的にも中心市街地の商店街につきましては、やはり特効薬や即効薬はないと。そういった点を踏まえて、糸魚川市全体として何ができるかということを検討していきたいということと、それから駅周辺整備の基本計画、これは1つのランドデザインとしてあつてきたと。ただ、26年に新幹線が開通するという目になって、もう少し見直しをしなきゃ



やいけないというようなことを答えているわけですね。

その見直しの方向について、やはりしっかりあってもらいたいと思うんですよね。こういう形でやっていくという話をしていただけたらいいんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ばれものあり〕..

○議長(古畑浩一君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

確かに計画をつくりながら、今進めてきておるわけでございますし、それを基本にしながら今行っておるわけでありまして、やはりかなりの時代、年数もたっておるわけでありまして、当然、議員ご指摘のような状況が起きる部分もあろうかと思えます。

そういう中で、基本的な部分については、そのとおりに進めていくわけでございますが、やはり実際それを実施するときには、その辺を本当にどうなのかというのを見なくちゃいけないんだろうと思っております。策定した時期、また年数がたってなくても、我々を取り巻く経済状況、または社会状況が変わってきとるわけでございますので、そういったところをやはりしっかり、またその中で再検討しながら、していかななくていけないと思っておりますし、例えば変更しなくちゃいけないことがあれば、やはりそれをまたお諮りする中で、決めていかなくてはいけないんだろうという考え方でおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(古畑浩一君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

先ほどもちょっと言いましたけども、計画はやはり見直してこそ計画です、時間が流れていく中で。だから本当は図面も書き直してもらえばいいんです、可能なところがあったら。まあそれはちょっと難しいだろうということで、百歩譲った話をしているわけでした。

ただ、本当にこの計画の中の問題点、不足な点を洗い出していったときに、ああ、ここは書き直すことができるじゃないかというようなことも、当然出てくるだろうというふうに思います。ですから、ソフト面・ハード面それぞれのところで、しっかりと対策を講じていただきたいということをお願いしまして、一般質問を終わります。

ありがとうございました。